

(様式 3 - 2)  
【学力向上フロンティアハイスクール用様式】

都道府県名	京都府	番号	26
教育委員会担当者名	大島 浩 樹		

学 校 名：京都府立福知山高等学校  
校 長 名：仲川 春雄  
所 在 地：京都府福知山市字土師650  
電 話 番 号：0 7 7 3 - 2 7 - 2 1 5 1  
研 究 担 当 者：教頭 下川 篤

## 1 学校の概要

### (1) 学校の特徴

明治34年京都府立第三中学校として発足した創立103年目の伝統校であり、現在は普通科単独校となっている(定時制分校は農業科・家政科)。「学力向上と希望進路の実現」「調和のとれた人間の育成」を目標とし、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を目指している。

### (2) 学校概要

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	280	7	318	8	278	7			876	22
	計	280	7	318	8	278	7			876	22
定時制	農業科	21	1	11	1	13	1	18	1	63	4
	家政科	5		10		8		11		34	
計		26	8	21	9	21	8	29	1	97	26

### (3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

#### 授業時間数確保

平成13年度までは始業前の補習授業、平成14年度は45分×7時限の授業を実施(31単位の教育課程)。平成15年度からは、1日あたり95分×2時限+50分×3時限とし、34単位の教育課程とした。

#### 進学講習・学習合宿

学期中は放課後に英数国を中心に進学講習を実施。休業中は学校や学校近くの施設を利用した講習を行ってきた。1・2年生は夏期休業中に2泊3日の学習合宿を実施してきた。

#### 教科会議

時間割に教科会議の時間を組み込み、模擬試験の分析等を行い、指導方法の改善を図ってきた。

#### 中高連携

数学科で中学校の授業参観、本校教員が中学校で授業をするなどして中高の教科指導の改善研究に努めてきた。

## (4) 教育課題

本校には比較的学力の高い生徒が入学してきており、地域からも進学に対する熱い期待がある。一方では、本校入学後の生徒の中だるみの傾向や、近隣の私学との競争が課題となっている。生徒の学習に対するより高い関心と緊張感を引き出し、学力向上と進学内容の質的向上を図ることが課題である。

## 2 研究の概要

### (1) 研究主題

「学力向上と希望進路の実現」

### (2) 研究のねらい

上記の教育課題を踏まえ、平成15年度入学生(普通科7クラス、280名)を対象として、様々な取組により生徒の学習意欲と学力を向上させ、進路実現の質的充実を図ることをねらいとした。具体的には以下のとおりである。

ア 生徒の実態を把握し、家庭学習習慣の定着を図る。

イ 様々な講師による講演や大学との連携等により生徒の視野を拡大し意欲を喚起する。

ウ 総合的な学習の時間を活用し、進路意識の育成を図る(1年次)。総合的な学習の時間と教科との連携を図り、進路目標別の指導を充実させる(3年次)。

エ 就職希望生徒にインターンシップを実施し、職業意識を涵養する(2年次)。

### (3) 研究組織

「学力向上フロンティアハイスクール推進会議」を中心として研究を推進する。会議の構成は、教頭・教務部長・進路指導部長・第1学年部長・教務部員(1)・第1学年担任(1)の6名とした。

### (4) 3年間の計画

#### 平成15年度

ア 生活及び学習実態・進路希望を調査し、生徒個々に対する理解を深める。また、面談を繰り返し、きめ細かな指導をする。

イ 国数英3教科について、府実力テスト及び全員受験模試により、学年全体及び生徒個々の学力実態を分析し、教科指導に活かす。

ウ 学習習慣を定着させるため、日々の演習(宿題)に取り組ませる。

エ 「総合的な学習の時間(1単位分)」を活用して生き方を考えさせ、進路意識を育成する。

オ 外部講師の講演によって生徒の視野を広め、生きる意欲を喚起する。

#### 平成16年度

ア 府実力テスト及び全員受験模試により、学年全体及び生徒個々の学力実態を分析し、弱点を克服する指導に活かす。

イ 大学との連携による進路意識の向上を図る。(大学教員による講義、大学の施設を利用した行事等を行う。)

ウ 達成感を味わわせるため、英語検定・漢字検定等の資格に挑戦させる。

エ 就職希望生徒のインターンシップを実施し、職業観を育成する。

オ 適時に面談を行い、生徒の意欲の減退を防ぎ、進路目標を確立させる。

#### 平成17年度

ア 「総合的な学習の時間(2単位分)」を活用し、教科と連携して進路目標別の指導を行う。

イ センター試験及び二次試験に向けて、生徒個々の学力分析を行い、効果的な指導方法を明らかにする。

ウ 適時の面談により、生徒・保護者の納得が得られる出願校選択を行う。

エ 外部講師の講演等によって、卒業後の人生の過ごし方について考えさせ、生きる意欲を持たせる。

### 3 本年度の取組

#### (1) 研究の実績

英数国理社の学習指導について、3年間を見通した大まかな目安を確認し、学年共通の指導方針とした。

スタディサポートにより生徒の実態分析を行い、対策を検討した。具体的には、家庭での学習習慣を確立するために、「日々の演習」として英数国の宿題を課し、毎朝登校時に生徒昇降口で提出させた。

府実力テストや全員受験模試の結果を各教科及び担任団で分析し、弱点克服対策を検討した。また、模試日程の調整を行い、部活動との両立に配慮した。

外部講師を招き、「英語学習について」「途上国支援について」「生き方について」の講演を聞かせて生徒の視野を広げ、自らの進路について考えさせた。

#### (2) 教材、資料等の作成状況

「日々の演習」として、月火水木曜日には英語と数学、金曜日には国語のプリントを作成し、家庭学習の時間を30分程度増やすようにした。

英語の辞書引きテストを作成し、年間5回全員に受験させることにより、辞書を引く習慣を定着させるようにした。

外部講師による講演



### 4 研究に対する評価

#### (1) 研究の成果

入学時の生徒の実態調査を丁寧に分析し、年間7回の面談週間を設けて生徒個々の状況を把握していたことにより、高校生活にうまく適応させることができた。

「日々の演習」を毎朝生徒昇降口で提出させることで、遅刻者・欠席者の大きな減少が見られた。また、模試の受験率、学習合宿の参加率等も例年より上昇し、高校入学の安心感による学習意欲の低下を防ぐことができた。

各学期及び学年末の成績不良者は極めて少なくなり、模試等の成績についても良い傾向を示している。

#### (2) 問題点及び今後の課題

今年度の取組は一定の成果を見たが、ややもすれば中だるみとなりやすい2年次を意欲的に過ごさせるため、一層の工夫を図っていかねばならない。以下のような点が今後の課題である。

進路目標を明確にさせる。

家庭学習の習慣を定着させ、質的・量的に一層充実させる。

英数国に加えて、理社の学習方法を身につけさせる。

### 5 16年度以降の改善策

面談週間を定期的に持ち、生徒の進路や学習についてきめ細かく指導していく。また、スタディサポートの実施を1年次の3月に早め、4月当初の面談資料とする。

漢字検定や英語検定に積極的に挑戦させて、達成感を持たせる。

大学入試センター試験演習を中心とした学習合宿を、8月上旬に行い、本格的な受験勉強に学年全体で取り組む体制を確立する。

生徒の類・類型にふさわしい内容の「日々の演習」を続けて、家庭学習の充実を図る。

大学や外部から講師を招き、講演・講義・進路に関する説明会等を開いて、生徒の視野を広め意欲を高めていく。